

I 芳齋分校教育課程編成方針

金沢市内全域より児童が登校しているという校区の広さ、及び、特別支援学級のみで編成されているという芳齋分校の特異性、さらに、一人一人の児童の障害等の差が大きいという実態により、特別の教育課程として学校独自の教育モデル(芳齋プラン)を編成する。

これは、学校教育法施行規則138条に基づき、小学校学習指導要領を基準としつつ、知的及び肢体不自由特別支援学級小学部学習指導要領を参考とし、「金沢市立小中学校における教育課程編成方針」及び「金沢スタンダード・ベーシックカリキュラム」、分校の経営方針や教育目標が加味されたものである。

分校における小集団を活かした学習形態による教育的効果を生かすとともに、情緒の安定や基本的な生活習慣の形成、児童の生活を中心とした生活単元学習の充実を図ることで、主体的に生き、社会的自立ができる児童を目指し、下記のことに留意し編成する。

また、授業の実施にあたっては、正確な児童理解に努め、それをもとに各教科等でつきたい力を明らかにし、いしかわ学びの指針12か条に基づき、各家庭とも連携を取りながら進めていくものとする。

- 1 見通しの持ちにくい児童の実態を大切にした教育課程の編成を行う
 - ・児童が見通しの持ちやすい日課、環境づくりを行う
 - ・繰り返しを重視した学習活動を行う(年間、月、授業)
- 2 生活単元学習を中心とした学習を進め、他教科との関連を図る
 - ・前年度の実績を基盤に児童集団の編成を考慮して計画する
 - ・他教科や行事等と関連づけて単元を配置すると共に、学習のまとめ方を工夫する
 - ・児童が見通しを持てるように、単元や活動予定のオリエンテーションを行い、既習を活かした学習を行う
- 3 小集団での学習を充実させる
 - ・児童同士での関わりの中での成長を大切にした小集団を活かした学習を充実させる
 - ・全校での取り組みの機会を増やし、関わり合う場や認め合う場を多く設定する
 - ・国語科、算数科では習熟度別学習を取り入れる
- 4 各教科等別の年間計画表を作成する
 - ・各教科等別の年間計画表を同じ様式で作成し、主なねらいと指導内容を明記する
 - ・今年度作成したものをもとに、児童の実態等に応じ加除や修正を図る
 - ・道徳教育は教育課程全体を通して行うこととする
- 5 個別の教育支援計画、指導計画を中心とした学習評価を行う
 - ・年4回(5、7、12、3月)の個人懇談において、保護者と連携して指導にあたる
 - ・各教科等別の指導計画を作成し、指導と評価の一体化を図る

6 本校との交流の充実を図る

- ・ ほうさいルームを活用し、本校学習日の定着を図り、交流学習内容の充実を図る
- ・ 交流がより深まるように、よい取り組みや支援の仕方の例等を分校から本校へ伝える

7 教育課程経営が充実するよう編成する

- ・ 年間計画を活用し、実施状況の確認や見通しを持った学習計画の作成を行う
- ・ 各担任は時数表を記載することにより、時数の遺漏がないようにする

Ⅱ 芳齋プラン 各教科等の指導方針

1 日常生活の指導

日常生活の指導は学校生活全般で行うことを基本とする。また、生活に必要な力（身辺自立に必要な力）を児童に着実に身につけるため毎日、同じ時間帯に、同じ内容を繰り返して指導を行う。これらの力は、教科学習等の基礎となる力である。児童一人一人の状態に合わせて、スモールステップで基礎的な力を育てていく。さらにこれらの力を生活へ生かすため学校と家庭が連携、協力して指導にあたる。

2 生活単元学習

児童の生活に根ざしたテーマに沿って、友達と一緒に精一杯活動できる学習素材や学習活動の工夫を図る。好きな遊びや行事に向けての活動に楽しく取り組み、生活経験を広げ、満足感や達成感を感じることができるよう環境と支援の工夫に努め、学習内容によっては、学級、学年等、集団編成を組み替える。校外活動も取り入れ、様々な学習活動が体験できるようにする。また、内容によっては、他教科との関連を工夫する。

3 国語科

身近な生活の中にある言葉や文字を獲得し、使用する力を育てるために、児童の興味のあるものの中から題材を取り上げたり、児童が「話したい」「聞きたい」「読みたい」「書きたい」と思える素材や単元を工夫したりする。時には、音声言語だけでなく、代替手段を活用してのコミュニケーションの手段を獲得できるようにする。指導にあたっては、児童の特性や、学習スタイルの特徴を考慮したグループ編成をする。

4 算数科

身の周りの数や数的なものへの気付きや関心を促し、数量の概念を形成し、理解を促すために、具体的な操作活動を多く取り入れていく。また、生活に生かすことのできる時刻、お金、長さなどの概念を育てるための単元を工夫する。指導にあたっては、児童の特性や、学習スタイルの特徴を考慮したグループ編成をする。

5 音楽科

表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な活動を楽しんだり、その美しさを味わったりできる子どもをめざす。特に表現においては、子ども一人一人の良さを発揮できるように多様な表現ができるように配慮する。

6 図画工作科

自分らしく表現したり作品を仕上げたりすることを喜び、用具を安全に正しく使える子ども、友だちの作品の面白さや楽しさを認められる子どもをめざす。指導にあたっては、他教科との関連考慮し、季節感の感じられる題材、個々の児童がその特性をいかした活動ができるように、学習活動や表現方法などを工夫する。

7 体育科

体を動かす楽しさを知り、運動やスポーツへの意欲や関心を高めると同時に、持久力や調整力を養い、健康の保持・増進を図ることができるような学習内容を取り入れる。また、運動やスポーツにおける簡単なルールが分かり、その子なりに楽しむことができるよう十分配慮する。

授業においては、内容に応じて、課題別、学年別等のグループ編成を工夫して、どの子どもも安全に取り組めるように特に配慮する。種目や行事によっては、学年間の縦のつながりを重視した縦割りチームを編成し、高学年のリーダー性や個々の役割意識を育てることを目的とする。

8 自立活動

生活行動全般、言語、運動、情緒、行動等の面で顕著な発達の遅れや特に配慮を要する様々な状態を改善・克服し、自立的に生活ができるようにする。その際、子どもの実態を把握し、指導目標を設定し、自立活動の指導として必要な学習内容を適切に盛り込むこととする。学校生活全体において指導がなされる。自閉症・情緒障害特別支援学級及び肢体不自由特別支援学級での、1時間の授業の中では、個別の課題に対応できるよう、教材・教具を準備し、指導に取り組む。

9 総合的な学習

芳齋分校のある中央小校学校校区、また、児童の住んでいる地域、及び金沢市全体の「もの」「人」と関わる機会を設定し、体験を通して考えたり判断したりできるようにする。その際、公共施設や交通機関といった教育資源を有効活用する機会を工夫する。また、コンピューターに慣れ親しみ、正しく使えるようになるための機会を設定する。さらに、他国の文化に興味を持ち理解を深めるため、英語に慣れ親しむ機会を設定する。これらの活動を通して持続発展教育を行い、持続可能な社会作りの担い手を育成する。

10 道徳

学校の教育活動全体を通じて、道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養うこととする。特に、自己の生命を大切にし、他者の生命を尊重する道徳的な実践力の育成に重点を置き、各教科等の特質に応じて、指導できるように密接に関連を図るようにする。

11 特別活動

望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、公共施設等を利用した体験的活動などを行い、子どもが自らの思いや願いを実現し、満足できるよう配慮する。また、学校教育全体との関連を図り、家庭や地域の人々との連携、社会教育施設等の活用などを工夫する。